

# 三河アララギ

2024年 令和6年5月 皐月  
さつき

五 月 号

第七十一卷 第五号



ニューヨーク日記(211) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

SHOPPING FOR FISH

## Blue Shoe Diaries



海の側に住むと新鮮な魚が手に入りやすいかな。でも何処で買えるか分からなければまずペリカンの行くところに行ってみましょう。この前ペリカンを眺めていたら自ら魚を取りにダイビングなどしないで人が魚を釣った瞬間を狙って魚を盗むのが当たり前のように案の定マリナーの方までつけて行ったら今日釣れてきた魚を扱っている漁師さんの後ろにお買い物客のようにペリカンさん達がたむろってました。後ろの方から飛んできているペリカンも見えるかな?すごいコミカル!

Where there's fresh fish, there are clever pelicans! Living by the ocean's edge gifts you with the freshest catch of the day, but if you're wondering where to snag some, just shadow the pelicans. It turns out that these pelicans have swapped diving for dining – they let the fishermen do the hard work and then swoop in for a seafood feast. Check out this savvy squad at the marina, lining up like patrons at a fish market, ready for the fisherman to serve up the catch of the day. They know the best meals are just a flap away!

# 目次

## 第七十一卷第五号(通卷八四五号)

表紙・土屋文明先生 (1)

ニューヨーク日記(21) Blue Stone (2)

歌集 わが冬葵 御津 磯夫 (4)

歌集「草々」 今泉 米子 (5)

三河アララギ歌集VI 大須賀寿恵 (6)

三河アララギ歌集VI 夏目 勝弘 (7)

『歌集 八千代』 岡本八千代 (8)

三河アララギ歌集VII 弓谷 久子 (10)

居心地 今泉 由利 (12)

明けやらぬ 安藤 和代 (14)

路の臺 山口千恵子 (16)

玉堂美術館 杉浦恵美子 (18)

花だより 伊藤 忠男 (20)

蕁狩り 白井 信昭 (22)

春の池 矢崎 直人 (24)

『ことよせ』 いーはとぶ 牧原 正枝 (26)

森 厚子 (26)

水野 絹子 (27)

牧原 規恵 (27)

稲吉 友江 (28)

鈴木美耶子 (28)

大武 智子 (29)

現代学生百人一首 東洋大学

青山 怜花 (30)

二之湯玲香 (30)

上山 愛裕 (30)

星本 宇哉 (30)

中西 結羽 (31)

大西 恋 (31)

山名野々香 (31)

松尾 紗弥 (31)

植村 公女 (32)

木村 歩歩 (32)

今泉 如雲 (32)

矢崎 直人 (33)

今泉 由利 (33)

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集 (34)

折々の詩(三) ふじのけんじ (36)

五感を澄ませば(23) 杉浦恵美子 (38)

附録(二十三) 矢崎 直人 (40)

『清明』 中屋 保之 (42)

『酔いの徒然』(145) 丸山酔宵子 (44)

「人生という旅をして」 高橋 育郎 (46)

絹の話(162) 今泉 雅勝 (48)

「江上浩二の独り言」 江上 浩二 (50)

初狩便り30 花野みぷり (52)

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬 本田 勇氣 (54)

康鍼治療院 玄翁 (56)

『露台の桜花に盃を挙ぐ』 殿山 木風 (58)

編集室だより 今泉 由利 (60)

「三河アララギ」について (62)

## 歌集 わが冬葵

御津磯夫

たまさかに家いでて用なく歩みゐる舗装路地を鼬いたちの仔がよざりたり

伊良湖の岬の荒磯に昆布なきことは萬葉の代も今もかはらず

あぢさゐの青のうつれる窓際にうしろ姿を寫さるるつま

水盤の中に鉢置く横着に楓も皐月も根くされとなる

起きいでてまた碧空を仰ぎつつ嘆かふごとく青空をいふ

白き栗の日なり九月の三日なり書き了ふわが獨唱第二百二十五

人に草をとつて貰へば跡かたなし黄花曼珠沙華節黒仙翁

庭の木は茂りにしげり伸びにのび百日紅なども散りたるを見る

門をいづること稀にして庭の徑に志賀山寺の青萩くぐる

あやふかりし日をさへ今はなつかしむ妻に紫の彼岸花笑く

歌集 「草々」

今泉米子

ドラセナの花にかわける風早しまたメ切に追はるる明細書

季にまだ早きせいごを獲りて賣るこの内海に魚群探知機

門札を確かめくぐり入りたる路地大名竹の低くそよげり

まだ解かぬ荷物もありて昇任の吾が子は住まへり夏萩の花

なには津の住吉を見て秋楡の小さき鉢一つ掲げてかへれり

朝飯のうちに決まりて志す奈良の北山十八間戸

方角をたがへたるらし佐保川の大日橋をゆきもどりする

地圖をみて先だつ夫におくれつつ佐保の堤を洋傘の杖

歩み暑く來りて般若寺石塔の九輪らしき見ゆ家竝の上に

一隅に移されて立つ笠塔婆そがひの竹の花に枯れゆく

三河アララギ歌集VI うろこぐも 大須賀寿恵

はたはたと音してストーブの火のつきゆくを瞬またたきしつつ吾は見てをり

新しく分家して来てより十八年俎板の減りにおもひいだしぬ

ただ前を見つめての如き七十四年思ひ出などは無きごとくして

浅蜷貝珍味貝などの殻多し埋立てられて死にし貝の殻かも

打ち寄する潮は澄みゐて潮の底の貝殻白じろと見えゐるあはれ

梅花空木の小さき緑の尖り芽に降りそそぐかなけふ木の芽雨

大き鉢にと植ゑ替へにけり来年もと心に恃む小さきポロニア

わが部屋に午後の日の光ゆらぎつつ畳みてをりぬ洗濯物を

よたよたとゆらく歩みに畑にゆき甘夏柑の落ちしを拾ふ

カニ草の鉢に高々と伸び立ちて黄の花かかぐるカタバミの花

三河アララギ歌集VI

黄砂

夏目勝弘

白髪の目立つ友と地下道に遇ふ我也また同じ年齢ならむ

胃の検査終へたる後の昼飯は飯の大盛りとにかけうどん

夢の中にて出来たる一首を思ひ出さむ息をつめつつ考へてをり

着蒲団の端を抱きて寝ぬるとき何とはなしに安らぎてきぬ

犬どもも吠ゆることなき今夜なりわが耳鳴りの音のみの世界

知らぬまに都合よきふりをする淋しき性を我も持ちをり

身を守るふりを繰り返し続けきぬ一つ仕事の三十五年

ゴムバンド腰に強く巻きつけて今日一日の仕事に耐へむ

朝の日のまだ射し入らぬ長山駅のホームに居るは我とセキレイ

除夜の鐘初詣等々もわが習慣よりなくなりたる一つ

『歌集 八千代』 日教組青森大会 蒲郡 岡本八千代

盲腸炎全快してより一ヶ月日教組青森大会にわれは出で行く

日教組青森大会に行くわれは白きスーツケースの大きさをさげぬ

寝台車のわれらは夜半となりてより上下左右に別れてゆきぬ

女教師のわれら六人の寝台車グリーンのカートンに夜は仕切らる

寝台車の中段の寝袋にわが入りてやうやくわれのひとりになりぬ

常磐線の夜行列車に揺られつつ勿来の関もいつか越えたり

明け初めし浅虫のホームに降り立ちぬ青き渚は前に広がる

日教組大会場の入口に売りゐるスリッパの赤きをえらぶ

大会用のスリッパと弁当とが三百円列をつくりてわれら買はさる

浅虫の温泉街のふた側に丈長きたんぽぽ群がりて生ふ

警官の人垣の中を通りゆき日教組大会の会場に入る

日教組の大会を半ばに帰りゆくまた丈高きタンポポの道

「乙女の像」にゆかず我のみ残りをり十和田湖畔のナナカマドの下

学校参観に来るけふの日の日直にスリッパ五十足をわが並べおく

はなればなれに特別教室十あれば鍵の束鳴らしわれは巡りゆく

三河アララギ歌集Ⅶ 御津山の麓にて 豊川弓谷久子

小心にて一生過ごしし父を思ふ槇垣の陰に咲く白き茶の花

歩きたいと病みゐる夫はまた言ひぬ足腰萎えし年月を思ふ

松葉画廊に三十三点の花の絵並べ我が子の初の個展始まる

樹齡など確かめざりき力寿姫の碑覆ひて咲けふ山桜

幼なき日の我が子の晴着の小布にて匂ひ袋縫ひぬ柿の形に

新緑の木々をゆるがす青嵐御津山すべてなびきゐるごとし

本文と注釈とを互かたみに今宵も読みて白河の関越ゆ我が奥の細道

終の日まで家にて看病みとりたしと子が言ひぬ病む我が夫の菓子を買ひつつ

朝よりの猛暑に我の思ひ深し逝きにし兄の日も弟の日も

夕べ来て浄願寺の庭に白々と落ちゐる沙羅の花を拾ひぬ

帰り行く子の自動車のテールランプ山下橋を渡りて消えぬ

黒き表紙に金の横文字のダイアリー今日より我の新しき日記帳

入院の夫に付き添ひしは二十年前癒ゆる日無しとは露も思はず

しで辛夷の花白々と今年も咲く御津山の麓に我は住みをり

## 居心地

東京 今泉 由利

夕刻のハドソン川に添ひゆきぬアートスタジオ・クロッキークラス

沈みゆく太陽に向かひひた走るオレンジカウンティ・アートスタジオへ

日本風ではないモデルさん自分自身の集中度良し

夕焼と街のあかりとごちゃまぜのそのなかにある居心地を

クロッキーブックと私は日本製モデルとスタジオはオレンジカントリー

今は昔昔のままのスタジオのそのままにしてオレンジカントリー

続きこし沢山の日々のその内に我身に戻すクロッキータイム

裏表散りくるものはその淡き桜古木に咲きそめし花

何事が起りしことか源氏物語読みつぎてゐるこの時を

千年を読み継がると源氏物語なぜなのでしょうか

ほんのりと桜の花の花影に父がをります母もをります

冬枯れの枝々見あげ待ちわびて今日は桜の花吹雪

太陽のほど良きことよやさしかり月のアシストハビダブルゾーン

一呼吸毎に地球の暮れてゆくしっかり地球にとどまりをらむ

朝の陽は水平線より登り来し朝のめぐりを夕に導く

## 明けやらぬ

豊川 安藤 和代

明けやらぬ弥生の空に山鳩の「デデーボボー」と春を告げおり

おだやかな春陽の注ぐ大原の人の動きに心も弾む

登校の児童も大谷結婚の話していく道は春色

好物を供える命日喜びか蠟燭の火の大きく揺らぐ

セールスとて吾訪い来る人のいて今日の日記に幸せと記す

白飯にチリメンジャコをのせればいっせいに目が私を見てる

この腕にひ孫抱く日も夢ならん生きねばならぬと今日も二千歩

ひ孫誕生その一報に全身は喜びあふれて眠れずにおり

スマホからひ孫の写真嬉しさよ見てみて見てみて夕暮れとなる

深みゆく春のそよ風パンジーの色冴え渡る昨今の庭

半日を細くやさしき春の雨炎の如く牡丹芽吹けり

息子亡き春の祭りの淋しさよのり巻き細くほそく巻きゆく

一日中誰れとも会話なき夕べ隣の猫の「ニャー」が嬉し

「誰か見て」と言うでもなくてやぶ椿寺の裏庭深きくれない

胡麻和えの菜花に小さき花芽見え夕餉の卓は春が満開

## 露の臺

豊川 山口千恵子

枯れ草の中にぽつぽつ薄緑露の臺出づる春はそこまで

ほろ苦き露味噌の味口の中春になりゆく気配の朝

スーパーの売り場に季節を知らさるる節分過ぎはや雛まつり

山茶花の花に遊べる目白をり立ちてしばし眺める朝

道畔の枯れ草の中にテントウ虫冬の日凌ぐ小さき命

この歌は幼き頃の吾子歌ひたりスーパーにかかる節分の歌

摘み入れし朝の味噌汁に香るなり三河湾に採れし青さのり

瓶にさす小枝の蕾ひらきたり  
薔椿の花紅の花

外に向き花咲く紅の花  
数輪植垣にまざる薔椿の木に

想ひ出せず一日もやもや過すなり  
鉢に植ゑたる草花の名を

広告の裏に急ぎ書き止めむ思ひつきたる  
一つの言葉を

羽を広げ鎮守の森の空高くゆったりたゆたふ  
鳶一羽

浸したる乾燥若布もどりゆく如月春めく朝の厨

何となく春の気配の感じらる鍋にをどりぬ  
若布のみどり

数少なき今年のが家の年賀状に切手シート一枚  
当たる

## 玉堂美術館

蒲郡 杉浦恵美子

中央線立川乗換青梅線武蔵野国の奥多摩へ行く

御嶽駅出づれば我が背に手作りの山葵漬いかたと声が聞こゆる

多摩川に育つ山葵と知りたればこの出合ひこそ小さき仕合せ

目的地到らぬ先に山葵漬岩海苔までも求めて仕舞ひぬ

御岳橋上より多摩川見下ろせば東歌一首口を衝きけり

いや違ふ此処は急流東歌はおそらく下流の浅瀬なりけむ

橋の下ラフティングボート見ゆ多摩川の上流くねくね濁流渦巻く

多摩川の右岸五分ほど辿ったらなだらか切妻玉堂美術館

玉堂の絵心尋ねて早春の溪流沿ひの美術館訪ふ

玉堂の日課は眼前多摩川の尽きぬ流れのスケッチといふ

画室には三人恩師の画像あり朝夕出入りに一礼せしとぞ

玉堂は木曾川べりに生れたり終の棲家は多摩川河畔

玉堂は海なく川のみ描きたり生れし土地を生涯慕ふか

雨風の烈しき音に目覚めたりあゝ母知らぬ歳を生きてる

十一日去年より遅く開花宣言壺なる枝も五輪綻ぶ

## 花だより

大阪 伊藤忠男

華やかな馬酔木の花にかこまれて観音菩薩輝きを増す

我が庭の桜一輪、二輪咲く指折り数えやつと左手

砂置き場どこから来たのか一輪の花にふるさと思ひ起こさす

排気ガス負けずに咲くや花蘇芳道路沿いとて春の香りが

ひっそりと町の片隅咲く花に心奪われ写メを撮るなり

赤に青黄色紫花柄の装い目立ち目移りのする

可憐にも心惑わすいじらしさ庭で微笑むナデシコの花

今年こそ友に応えん大賀ハス決意を示す水瓶選び

引き出しに未だ残りし種数個友との約束果たせぬままに

住宅の中に似つかぬ花の園ゴザを敷き詰めビール並べる

国道に沿って咲くのは地藏辻寒緋桜の勇姿誇らし

河津町自費で育てた飯田氏の細めて見る目今があるなり

いち早く桜求めて天城超え伊豆は魅力に溢れるところ

数本の枝にまだらな花つぼみ膨らむ姿痛々しかな

貧弱な庭咲く桜見る見兼ね肥料は何かとネット調べる

## 莓狩り

豊川 白井 信昭

啓蟄という今日の日の朝より冷たき雨に一日暮れたり

吹く風はみ社の森渡りゆく春三月のあらしかも

春浅く寒の戻り来て冷え冷えと夕方カイロ貼り替える我

生垣の豆板囲いの隙間より黄水仙一つ顔を出したり

角口のわがモッコウバラ出入口根本狭めてブロック五段

庭仕事ストーマ装具今一度見直しながら万全を期す

プレートの装具裏側穴まわり皮膚<sup>ひふ</sup>保護シール適正に貼る

プレートの外周りに貼る保護テープ今までのより変形型に

庭中の豆板通路改めて幅一列を広げるもくろみにあり

幾久し家族と行ける苺狩り五人揃たりいて息子の車

バイパスのここより行ける近道とベイブリッジウェイ内海うちうみまわり

ひたすらに一つ道をば走り来て伊良湖いらこの浜辺農園近からむ

温室まで送迎ありてここよりはワンボックスカー我ら乗り行く

プランター紅ほっぺ赤く熟じゅくせる実数多あまたなりけり端から端まで

うつつとうしい春の長雨居間に妻昔の絵本を孫に読み聞かせ

## 春の池

埼玉 矢崎 直人

木曾川の川底の石楸邨によつて命を吹きこまれたり

実際にあつた出来事もとにした虚構に生まれる象徴性の

伝えたい伝えてほしい思いらを意思の表示を共に探らん

利用者と散歩木蓮犬ふぐりムラサキホトケグサの咲いたり

やらなければならぬことを一日や二日は忘れて過ごせる休み

心身に与う喜びご褒美をあげて調子を整えていく

祖父が来て植えてくれいし君子蘭今年は一株花をつけいる

一行をこの一行を書きたいと書かれた小説読める愉しみ

創造は破壊の覚悟持ち綴る福沢諭吉の生める日本語

ステップを刻んで春の雨の音風に吹かれて途切れ途切れに

草笛の高き音空にのぼりゆく昔は荏原と呼ばれたところ

春の池流されるまま亀の四肢バタバタしても流れるままに

大銀杏天に二股竹垣をめぐりあいたる戸越公園

山桜葉が現れて花が咲く坂を登りて着ける中腹

「とろんそん」丸太の意味の喫茶店カレーを食いて俳句を詠んで

『いじよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

届きたる十年越しの時手紙様変はりせし事のあれこれ

森 厚子

けふの海翡翠色して焔めけり白きカモメら数多浮かぶよ

伊勢詣で神棚携へ一万歩あゆみて褒美のぜんざいいただく

海辺の文学記念館で時手紙を書きました。手紙が届いてからは、セピア色の十年前に思いを馳せる事に…。

伊豆の夢頼朝起てし武士の世を破る黒艦<sup>くろね</sup>下田の沖へ

水野 絹子

若人の行き交ふ修善寺雨に濡れ独り頼家葉擦れの中に

今もなほ天城に残るや百日紅慧生<sup>えいせい</sup>の影追ひつつ越えゆく

早春の伊豆の旅をして、武士の世がここに始まり終わった事に、感慨を持ちました。

わが孫の受験の状況気になるも自粛してをり聞きたき気持

牧原規恵

五十年飾り続けらるお雛様七段飾りが二段になりぬ

玉ねぎの生育見守るわが夫は天候の変化に一喜一憂

畑の冬野菜が順番に収穫を終えてきました。外気は冷たくても次の仕度に取りかかります。春はすぐそこに。

着々と工事の進む「西浦駅舎」完成するは桜咲く頃

稲吉友江

隣家より「牛蒡煮えたで持つてくかん」ここにはまだある昭和の生活<sup>たつき</sup>

施設にて人形あやす母想ふ母子草あるを知りし日の夜

子供の頃は戦後のどさくさでしたが、隣の家へご飯を食べに行ったりして、今より大らかな暮らしでした。

歳若きあなたの通夜へ行くとふにいまだに出せぬ喪服が出せぬ

鈴木美耶子

白熊の巨き縫ひぐるみ置かれゐるカフェにいつまでもかの日あなたと  
アップルパイ上手に焼きては届けくれし歳若きあなた逝きてしまひつ

かつて同じ会にいて、いつも私を助けてくれました。あたたかな人でした。突然に逝ってしまいました。

おのがため師は記されし「短歌研究」昭和二十五年は旧姓の署名

牧原正枝

戦後なる暮らしと人のうかびくる若き師の短歌おとなの乙女

我が名にて契約書結ぶこの流れ知らない事にわからぬ事が

先生が西浦で戦後をしつかり生きてみえたのを実感できる機会を頂きありがたく気のひきしまる思いです。

連翹の枝に架かれる蜘蛛の糸はつかの風に揺れてきらめく

大 武 智 子

二度と会ふことなき顔の写りゐる十八歳の集合写真

買ひしよりふた月を経てやうやくに黄色い家を読み始めたり

二首目は文学部に入学当時の、ドイツ語選択のクラスの記念写真。写真を整理して見つけた。懐かしかった。

## 現代学生百人一首

東洋大学

今話題スケボー買って挑戦だ一週間でやる気無くした

光ヶ丘女子高等学校1年 青山 怜花

朝八時ベッドから起きる兄弟たち朝から取り合うリモートの場所

菰野町立菰野中学校2年 二之湯 玲香

十年後再会しても気づくかなマスク顔しか知らない友達

三重県立津東高等学校2年 上山 愛裕

今度こそたるんだ身体に終止符を筋トレ動画を寝ながら探す

三重県立津東高等学校2年 星本 宇哉

AIも母の声には返事する優先順位インプット済

守山市立明富中学校3年 中西 結羽

雨弾く紫陽花ひかる梅雨の頃三室戸に咲く二万もの四葩よひら

京都廣学館高等学校3年 大西 恋

マイルーム気軽に入る我が父に一度言いたい立入禁止

京都文教中学校2年 山名 野々香

役割に制服さらに呼びかたも男女で分ける必要があるの？

立命館宇治中学校3年 松尾 紗弥

『俳句』

息ひとつ整えてをり花見坂

植村公女

水涸の音無川や桜散る

人影の重なりてゆく小春かな

みもぎ咲き帰らぬ兵士三万余

木村歩歩

鳩泣いて川底透けて黄泉の国

春雷や宿り木の下雨宿り

春愁やビストロ出でて風一陣

一年生名札づくり<sup>づ</sup>くり<sup>り</sup>に黄水仙

津軽にも旧石器あり麦青む

今泉如雲

四十年振りの参宮翁草

春寒や黒にんにくをひとかけら

花曇むかし荏原と呼ぶる地の  
道々の庭を愛する春吟行

矢崎直人

慣れた手の動きを見せし松の芯  
花冷や寄り道の末食うカレー  
春宵や日々の学びを思ふ道

原産は中国にして沈丁花

今泉由利

沈香のただよひきたり今日の春  
小手鞠手鞠花雪球花

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集

紅ふんでそつと見つめる庭椿

木風

神戸よりくぎ煮届いて春を知る

雨嵐そろそろ金さん見得を切る

せわしげに一、二、三月過ぎにけり

吾が家にも椿の花の咲くぞかし

庭地蔵女郎蜘蛛めが通せんぼ

水まいて地蔵に虹の立ちて消え

水浴びて庭の地蔵も涼しかり

春近し雲間にあわき光りあり

雄山

春の日に霞と思ふ黄砂かな

雪柳風にふかれて風の花

ねぎぼうず頭切られて新芽出す

花見席新入社員の初仕事

太陽の位置に従ふ朝昼晩

相対性理論の内の夏休み

存分に夏の太陽身に受けて

桜咲く日本のこと父母の国

太陽と夏の白砂とペンギンと

右肩に十五夜の月日本へ帰る

自らに合はぬちぐはぐ夏休み

由利

折々の詩(三)

ふじのけんじ

白い朝

凍えた朝

雪が瓦礫を覆っていく

今までの営みは

こんなことのためにあったのか

虚しい朝

この寒さは たましいまで凍らせる

傷ついた心にも

雪は降り積もる

心を閉ざすような薄暗い空から  
いまにも消えそうな細い光が  
窓からこぼれる

光だって傷つくんだ

今は静かに

照らしてくれ

そして

凍えたわたしたちを

すくってくれ

## 五感を澄ませば (23)

杉浦恵美子

### 桜と別れ

今年の開花宣言ほど気を持たせた年はありません。

当初は、3月下旬にはもう満開も過ぎ、入学式には葉桜で、むしろ卒業式が満開の桜の下で、となってしまうかも知れぬ心配をしていました。

ところが気温の乱高下のせいで今度はいつ咲くのかしらとハラハラ。

と言うのも、3月下旬に東海地方で「名古屋のテレビ局史上最大の桜中継 人気気象予報士夢の共演」と銘打って民放5局のリレー中継を放送予定だったからです。初めての企画で私も楽しみにしていました。

どうなることやらと心配していたら企画は1週間後に延期、その間にめでたく開花宣言。

やれやれ古歌の

世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

在原業平

をつい思い出してしまうほど、桜というのは春の一時期の日本人の心を引きつけて離さないものですね。

そればかりでなく、时期的にも別れの季節。

それと相俟って切なさもあります。

それで思い出すのはある童謡。

子供の頃、聞く度にその情景を想像しては切なくなつたものです。

花かげ

大村主計作詞

十五夜お月さま ひとりぼち

桜ふぶぎの 花かげに

花嫁すがたの おねえさま

くるまにゆられて ゆきました

十五夜お月さま 見てたでしょう

桜ふぶぎの 花かげに

花嫁すがたの おねえさまと

お別れおしんで 泣きました

十五夜お月さま ひとりぼち

桜ふぶぎの 花かげに

遠いお里の おねえさま

わたしはひとりに なりました

因みにこの童謡は昭和6年、作者が二十歳の時に、実

体験に基づき、一夜で書き上げたものとのこと。

作者が少年のころ、姉が嫁ぐ日に、山梨県甲州市にある向嶽寺境内の桜並木を通つて嫁入りしていく姿を、涙ながらに見送つた切ない思い出を歌つたものだそうです。

長い間姉妹を想定していましたが実は姉弟だったのですね。

また今から百年近く前の世相とは言え、お嫁に行く方も見送る方も、「幸多かれ」より「別れの辛さ」の方が前面に出ていて、いかにも日本的抒情を感じます。

でもこういうの嫌いじゃないんだなあ、と思います。若者からしたらもう古い感性かもしれませんが。

さて古今桜を詠んだ名歌は数知れず。そこで「桜と別れ」が感じられる歌を探しました。

人口に膾炙している歌ばかりです。

**桜花咲きかも散ると見るまでに誰かもここに覚えて散り行く**

柿本人麻呂

桜の花が咲いては散るかと思われるほどに、いかなる人々が、ここに現われては散りぢりに別れゆくのだろうか。

花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに

小野小町

桜の花の色は、むなしく衰え色あせてしまった、春の長雨が降っている間に。ちょうど私の美貌が衰えたように、恋や世間のもろもろのことに思い悩んでいるうちに。老いてゆくはかなさは盛りの時からの別れを哀しむ気持ちと同じではないかと。

**さざなみや志賀の都は荒れにしを昔ながらの山桜かな**

平忠度

この歌は懐古の情を歌つたものですが、平家物語のエピソードと併せ読むと複合的に哀しい別れがイメージされます。

最後に現代の代表歌人、俵万智の作品を紹介しましょう。

さくらさくらさくら咲き初め咲き終わりにもなかつた  
ような公園 『サラダ記念日』

これは五七五七七の定型に収まらない上、字余り、句またがりもあるのに音数はきっちり31音。そして開花から散つた後までが一編の映像のよう。その斬新さは短歌の可能性をも表現しているところに目を見張られま

す。  
西行が望みし終焉本心は世捨て人とは隔たるころ

附録（二十三）

矢崎直人

道々の庭を愛する春吟行

戸越公園に吟行に行きました。花冷、花曇の街は、人が増えては来ましたが、完全に以前の賑わいを取り戻すまでは行かず、古くからの店舗は無くなり、駐車場が増えていたり、様子が変わっているそうです。

戸越公園はその昔、肥後（熊本）藩主細川家の下屋敷で現在は品川区の管理で入場は無料。池を中心に溪谷や滝などを一周する回遊式庭園で、メタセコイア、銀杏、椎、欒などの巨木が見られます。また、建仁寺垣や御簾垣など名前の付けられた竹垣がめぐらされています。

春の池流されるまま亀の四肢バタバタしても流れるままに

大銀杏天に二股竹垣を巡り会ひたる戸越公園

山桜葉が現れて花が咲く坂を登りて着ける中腹

慣れた手の動きを見せし松の芯

植物に詳しい方がいて歩いていく道の民家の庭に植えられている草木や公園の花、そして、芯が延びて花が付きはじめた松の手入れの仕方などを教えていただきました。一人で歩いているだけでは気が付くことが出来ないものに会うことが出来るのが吟行の醍醐味です。

### 花冷や寄り道の末食うカレー

喫茶店の店主の方が俳句の会にご参加されていたご縁でお昼のお食事を頂き句会場をお借りしました。一緒に投句と講評をしていただき楽しい時間を過ごすことが出来ました。

「とろんそん」丸太の意味の喫茶店カレーを食いて俳句を詠んで

# 『清明』

中屋保之

清明時節雨紛紛

清明せいめいの時節じせつ雨紛紛あめふんぶん

路上行人欲斷魂

路上ろじょうの行人こうじん魂こんを断たたんと欲ほつす

借問酒家何處在

借問しゃもん酒家しゅかは何いれの處ところにか在ある

牧童遙指杏花村

牧童ぼくどう遙とほに指ゆびさす杏花きょうかの村むら

晩唐の詩人「杜牧」の作である。麗うらららかであるはずの春先、思いがけなく雨に逢う旅人。鬱々とした心持ちを酒で紛らわせようと、牛飼いの少年に、近くに酒屋はないかと問う。すると少年は、遙か彼方の杏花の花が咲く村を指ゆびさす。『まるで、なにをそんなに急ぐことがあるのか、自然のままに……とでもいうように。』これは、私の勝手な解釈である。漢詩については、必ずぶの素人の私でさえ目の前に情景が浮かび、想像を膨らませてしまったり素敵な詩である。さらに題の「清明」がまた、好い。

古来、中国では春分の日から数えて十五日目を二十四節気の一つ「清明節」と称し、先祖を祭る重要な日とされている。この日に墓参りを行い、墓地を掃除して花を手向け、故人に感謝の意を示すなどの風習は今でも継承されており、「掃墓そうぼ節せつ」とも呼ばれる。我が国に於ける「お盆」の原型のようでもある。

「暦便覧にようびんらん」という書物によって、我が国にも二十四節気などの「暦」が庶民、ひいては現代の我々にまで広まったのは、18

世紀後半江戸時代中期に入ってからと言われる。著者は、常陸国宍戸藩五代藩主松平頼救（頼救）と伝わる。余談ながら、系譜を辿ると二島由紀夫に繋がる人物だそうである。

「清明」を暦便覧（ひもと）で繙けば、万物発して清淨明潔なれば、此芽は何の草としれる也（太陽の光が万物を照し天地すべてものが清く明るい季節で、咲いている花が何の花かも明らかに）とある。言いえて妙、日本語のすばらしさを改めて実感させてくれる。「立春」から始まる二十四節気のひとつひとつに季節を味わい、その折々の季節に応じて日々の生活を順応させる日本文化の質と人々の精神の高さは誇つてよい。

新暦でいうところの四月四日が「清明」であった。

## 清明の 紛々の雨

先づ聴かむ

相生垣 瓜人

私と同じ誕生日（八月十四日）の俳人の句である。

『酔いの徒然』（二四五）

丸山 酔宵子

酔宵子

『まだ寒い桜を待つ3月の或る日のこと』

「今年の桜の開花は3月中旬でしょう！」などと言われているのが、まだまだ開花の兆しも無い寒い日々が続いている。

3年前のコロナ禍以来、旅行とか特別のイベントが無い限り、週に2、3日は都心に出て、午前中に若干の仕事を済ませ、昼食後は日比谷・有楽町界隈でロードショーを鑑賞し、夕刻から銀座で一杯がルーティーンとなっている。

今日は3月25日月曜日。朝からしとしとと長雨が続き、まだまだ肌寒さが残っている。いつもの月曜午前ミーティングは雨のためズーム会議で早々と済ませ、日比谷での映画の前に、六本木の国立新美術館で開催中の「マティス展」に出かけた。

菜種梅雨今日の会議はズームなり

フランスのニース市マティス美術館の所蔵作品を中心に、絵画、彫刻、版画、切り紙絵、テキスタイル等の作品を展示。なかでもマティスが最晩年にその建設に取り組んだ、芸術家人生の集大成ともいえるロザリオ礼拝堂が再現され、建築から室内装飾、祭服に至るまでの、マティスの至高の芸術を紹介している。広い展示会場には、雨の寒い3月の午前中にも拘わらず、知的な教養溢れる老若男女、外国人も含め多くの人たちが熱心に鑑賞している。

今日のように国立新美術館や六本木で所用があると、必ず立ち寄っている老舗コーヒー・ショップ「カフェ・ブナ」がある。バブルの頃の六本木でオフィスを構えていた頃から35年にもなる。

乃木坂駅から桜の蕾が芽吹き始めている小道沿いの、六本木ヒルズ前の路地裏に入った瀟洒なビルの2階にひっそりとある。1972年の開業で、今年で51年目となる。

年季の入った漆喰の壁とオレンジ色のランプの暖かい光に包まれている店内は、ヨーロッパの避暑地をイメージ

ジ。海外から仕入れたという家具と食器は開店当初から変わらない。カウンターにある黒電話も健在で、時折店内に鳴り響く懐かしいベルの音が心地いい。オーナーで店を一人で切り盛りする能勢さんは慶応ボーイの87歳。しかし、矍鑠として、今年米寿になるとは思えない。

### 花芽吹く小雨の路地の珈琲屋

#### 酔宵子

店先の看板には「寛げる雰囲気と珈琲と音楽」。カウンターの横の棚にはCDが所狭しと並んでおり、BGMへのこだわりが伺える。

「・・・僕はね、クラシックやフランスのシャンソンなどもかけますが、特にこだわるのは、20世紀前半のアメリカのポピュラーミュージック。曲を聞けばタイトルは勿論、奏者や歌手名、製作年がバツと頭に浮かびます・・・」

珈琲の香りの中でフランク・シナトラの落ち着いたバラードを聴いているとあつという間に時間が過ぎてゆく。

「アーツ、そろそろ行かなければ・・・」。

ネット予約したりバイバル・ロードショー「ラストエンペラー」の時間が迫っている。早速、日比谷線の乗り込み、銀座の和光出口から、彼のシネスイッチ銀座に向かう。因みに、銀座シネスイッチは、マイナーであるが話題の内外の話題作を取り上げよく通っている映画館で、彼の東北大震災の激しい揺れもここで経験したのである。

1988年ベルナルド・ベルトルッチ監督でアカデミー賞作品賞、作曲賞も獲得した名作の4kでのリバイバル。今から35年前に、混迷の中国状況を克明にドラマチックに、これだけのスケールで、それもイタリアのベルナルド・ベルトルッチ監督が作り上げ、4k再生映像は素晴らしく、坂本龍一の演技と音楽も改めて堪能且つ感激・感動・・・・・・・・。

矢張り映画の後は、いつもの銀座のBar MODで、感激と興奮を和らげるのであります・・・・・・・・。

テンションを冷ます一杯ハイボール

#### 酔宵子

## 人生という旅をして

高橋育郎

旅は人生 人生はまた旅

昭和一ケタ生まれの わたしには

現実のふるさととは 眼前から消えて

残るは 心のふるさとばかり

幼い日々のこと

小中そして高校からの青春時代を

通り抜け 大人へと成長した

心の旅路を旅すれば 懐かしさが溢れ

思い出はしみじみ あたたかく

生きてきた 温もりを感じる

心の旅路を旅すれば あたたかい思い出が

明日への生きる 力となる

いま人生の夕暮れどき 眼前にある現実を

夕日が彩り 残照の輝きを放つ

生きている幸せの意味を 静かに

おしえている

## 絹の話 (162)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

### 絹で『氣』を養う

#### 氣とは何か

氣とは東洋医学では自律神経や内分泌系の動きに関わり、人の体を動かす根源的エネルギーで、「心」「体」「物」がエネルギーを変換しながら人間が生きて行く上で最も大切な計測不可能な要素の一と考えられています。健康で過ごすには氣の巡りを良くしなければなりません。

#### 病院のベッド、自宅のベッド

筆者は突然白血球が減少し入院を余儀なくされました。病院内は24℃には保たれ、ベッドは厚手の木綿と化繊混紡シートと、同素材の上掛けでした。

睡眠も取れるし特に不自由な事は感じませんでした。何か物足りない気がして心が落ち着きませんでした。

退院して自宅のベッドに潜り込みました。自宅のベッドは柞蚕（野蚕）の絹紡糸シートと柞蚕中綿枕、同足枕、上掛けにはエリ蚕シルクの毛布で、寝心地は病院のベッ

ドとは全く違う、病氣の氣が快氣の氣に変わって来るのを感じました。

#### 絹はどうして気持が良いか

産業用に活用されている絹糸昆虫は家畜化された家蚕と山野に息する数種類の野蚕です。

絹には彼らが生き残る為の戦術が隠されています。彼らの生存の戦略を利用して人の氣を養う物を作るにはそれぞれ特徴の違いを理解しなければなりません。

絹や人の皮膚のタンパク質は20種類のアミノ酸で構成されていて絹と人ではその構成比率が違いますが、人には親和性に富んだ素材です。

第一は絹の細くてしなやかな感触と糸のタンパク質を構成するアミノ酸にその秘密があります。

絹のタンパク質はグリシンとアラニンというアミノ酸が全体の70%強を占めています。

家蚕絹ではグリシンが約45%、アラニンが約25%です。野蚕絹ではその構成比が逆転しています。

幼児の肌に触れた時と同様な絹の感触はグリシンの働きで、たおやかな性的幸せホルモン（オキシトシン）を多く分泌し、アラニンが多いと能動的な幸せホルモン（セロトニン）が多く分泌されて気持が良くなる

と思われます。

第二は糸の構造です。家蚕の糸は40%の結晶領域と60%の非結晶領域を持っているので堅かくて柔らかい繊維で、野蚕（ヤマユガ科）の糸は種類によって孔の数（40〜600）が異なる多孔質繊維です。その非結晶部分の空気と孔の空気が人に沿った温度、湿度を調整して、血行促進、低体温防止、防臭効果などが働きで良い気持ちになります。

第三は繊維の太さ凹凸等の不均一です。

人の肌の表面と同様な絹の表面の不均さは違和感の無い同質的安らぎを覚え、糸の凹凸による糸と糸の擦れで起こる絹鳴（耳では聞こえな）を肌で感じ、無自覚の安心感が気持ちを良くさせます。

第四は糸に含まれる色素です。

家蚕絹の糸には色素は含まれていませんが、タサール蚕など野蚕の糸には糸の中心部までタンニンが含まれ、防虫効果ばかりでなく、その抗酸化作用による老化学予防にも役立つと思われます。

### 絹で「気」を養う製品を作ろう

養蚕は農薬の散布される環境では飼育できませんので健康環境維持素材と考えます。

絹は理屈ではない気持ちの良さを感じますのでシーツや毛布、枕などを常用して「気」を養って頂きたく思います。絹壁の部屋は広葉樹林の中にある様な安心感と程よい湿度湿度の良さで、雑臭も感じない快適な空間です。

病院のカーテンにシルクゲルを噴霧するとリラクセスした空気になり雑菌の繁殖が抑制され院内感染防止と、洗濯の頻度が減らせると思われます。

アトピー性皮膚炎の10人に絹の肌着、3ヶ月間着用実験では3割の人に著しい良好効果が見られ、改めて衣料と健康を考えさせられます。

衣料素材を国レベルで改善すれば国民健康保健などの出費節減に役立つばかりでなく、カーボンニュートラルにも大いに貢献すると思われます。

絹は明治初期から国が取り組んだ様に、再度国レベルで絹の新しい利用法を考える時代ではないでしょうか。

### 絹の機能性が語れない

絹は自然素材ゆえに絹〇〇というエビデンス表示の計測は不可能です。従って印刷物の記載配布に規制が有り、古来より積み重ねられて来た絹の幅広い利用が忘れられようとしています。温故知新で「気」を作ります。

## 「江上浩二の独り言」 77 江上浩二

## 厳しいグローバルマーケットینگ(2)

十一年前の事だが2013年二月初め、仕事でサンフランシスコへ出かけた。フライトの都合で(安いチケットで帰国曜日が指定されている)、一日オープンの日が出来た。そこで久しぶりにソノマ・ナパバレーにあるワイナリーツアーに参加した。

集合場所へ行くと私が予約したグループは、所謂米国を加えインターナショナルなお上りさんグループ。もちろんツアーの説明はバリバリの American English を喋るドライバー兼ガイドの比較的若手の部類のお兄さん。気が付いただけでも、カナダ、韓国、イタリア、フランスなどからの観光客、もちろん私が日本人で一人。仕事でのカンファレンス英語とは違い、久しぶりに生英語に浸り、感激した。

さて、ワイナリーは三箇所見学がセットされていた。二つはローカルで製造した美味しいワインで、輸出していないと言ふ。もう一つの大きなワイナリー (Sebastiani) は海外に手広く輸出していると言ふ。先に Sebastiani の話をしてしまふと、今やアルコール類は重たく土産に瓶を持って帰る事が無くなってしまう。まあ、都内の店で探せば入手できるだろうと思ふ、Sebastiani が買えそうな店を帰国後ネットで

探すと、驚いた。仕事で頻繁に乗降する神田駅近くに Y というワイン専門店があり、そこで Sebastiani が置いてあると言ふ事が分った。フライトで十時間かけ、さらに車で二時間かかる彼の地の美味しいワインが神田駅から一分で行ける所で手に入るのだ。これもグローバルゼイションの恩恵だろう。

他の二カ所の小さなワイナリーは米国内でしか販売していないと言ふ。カナダからの客がカナダへも送ってもらえないのかと尋ねても、アルコール関係商品は色々と言ふなどの手続きがあつて出来ないという。恐らく、輸出となると生産量の問題や品質管理の方も国際基準にのっとつてやらなければならぬであろう。バリバリの英語をしゃべれる米国のワイナリーでも Globalization への足かせがあるのだ。ただ物流や輸出手続きだけならば、専門商社や輸出業者へ依頼すれば出来そうだが、オーナーさんの気持ちをそこまで動かすことは出来ないであろう。

味に繊細で、ワインと食べ合わせる料理にまで気持ちが行ってしまうと、ただ自分のワインを輸出する事では済まないであろうと善きに解釈した。フランス、イタリア、スペインなどは別として、もともと輸出品を指して大規模なワイナリーが最近ではチリ・アルゼンチン、豪州・NZ、南アフリカで造られていて、品質管理も現代的手法で行われている。非英語圏のワインが輸出されているのに、ナパやソノマの米国产ワインが輸出出来ない所に、我々日本人が考えるべ

きグローバルイノベーションへの課題があると思う。

さて、ワイナリーツアーの四か月後に、少し真剣にグローバルマーケティングについて考えた。米国株式市場上場企業にはForm 10Kとこう企業経営状況を詳しく説明した資料の公開が求められている。所謂企業業績、財務状況の説明に加え、Risk Factorという項目がある。過去幾つかの企業のForm 10Kを査読した事があったが、最近（2013年当時）目を通した企業のRisk Factorの内容は定型的なものであるが、企業のGlobalizationを考える際に参考になる。

以下、ある企業の概要（一部省略）を意識で示す。企業経営実績は海外売上有るが故に、常に変動要因が大きい。自社の売上で海外売上の比率が大きく、将来の成長に向けても海外売上の割合は増加すると予測している。従って海外売上に依存する利益はかなりの企業リスクであり、次のような要因がある。

#### 自然災害の他に

##### 外貨変動

##### 関税や他の貿易障害

##### 政治的、経済的不安定性

通信分野や他の製品の政府許可（認定）を取得する難しさ  
ある国では知的財産権の保護が不確かであることや保護  
レベルが低いこと

複雑な海外法規やそれらの処置に対応する事（コンプラ

#### イアンス）が悩みの種

これらはバリバリの米系企業ですら身に沁みて体験、遭遇している課題であり、単なる語学（英語ではない）の問題ではない事は明白である。異文化の中（衣食住、法規、金銭に対する意識、信用・クレジット、人をどのような経緯で信頼するとか）での実務業務を如何にマネージ出来るかが、グローバル経営で越えなければならぬハードルである。

この十一年も前の経験を令和四年二月号で呟いたが、最近ではIT技術の進歩や社会の中でDX（デジタルトランスフォーメーション）への関心が極めて高い。というのは国内でのDXが遅々として、特に行政サービスでの遅れが指摘され、民間での導入スピードが速く、折角のマイナス金利解消や昨年以上の賃上げ実施が為されるといふ経済環境が好転しかかっているという中で日本企業もデジタルマーケティング等のプラットフォームを充実させてさらなる成長を目指したい。

リスク管理が前面に出ると、BCP（事業継続計画）を真剣に検討すべきで、今やネット社会の中で、拠点分散やクラウドネットワーク、データセンターの分散化等々、インフラ対策・投資も厳しくなっている。それらを見極めたグローバルマーケティングが必要であることになってくる。



初狩便り  
(30)



花野みぷり



## 田植え

いよいよ田植え。この日を目指して、水路の古草を焼き、水路を整備し、川から水を引き、田に水を満たし、代掻きを丁寧に戻した。田んぼには清流・笹子川の透き通った水がたつぷりと満たされている。周りの田んぼでは、昨日までに田植機で植えられた早苗がそよよと揺れている。もう蛙も鳴きだした。

老若男女三十余名が集まった。苗の扱い方の説明を受ける。苗は三本が基本でも多くても五本まで。苗の数が多いと分蘖がうまくいかず、収量が減ってしまうのだ。そしてしっかりと泥のなかに挿して、活着を促進させる。

横一列になり、作業開始。真っ直ぐに植えないと後の田草取りなどの作業が大変なので、両サイドに紐を持つ人が立つ。自分の担当の十か所ほどをみんなに遅れないように植えていく。腰を屈め、泥田のなかを後退しながら植えていく作業はけっこうキツイ。尻餅をつく人がほぼ毎年現れる。私も泥田にすってんころりと転んだことがあり大笑いされた。

爽やかな五月の風を受けながら、仲間たちと働くのはたのしい。

## 本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言

<https://hondachiro.exblog.jp/>

2024年4月10日

### 気分転換に

昨日の激しい雷雨から転

どこまでも透き通るような青空

冷たい風になりました

今年は花粉が多く症状が強くなっていきます

引き続き花粉症対策とウイルス対策をしていきましょう

冬から春に変わるこの時期

雨が多く寒暖差も大きくなります

そうしますと 頭痛 ギックリ系

手首や足首などの末端の不調 ひざ痛 食欲過多

などが出やすくなります

身体の流れがおかしくなりやすいため

3S+ゆたほん+ヨーグルト+八分に加え

ぶら下がり トランポリンやスキップ

陽射しを浴びて歩く

青竹ふみ

などやりましょう

これらは 気分転換にも良いので

続けられる様に

気持ち良い程度にやり

くれぐれもやりすぎに気をつけましょう

今日も楽しんで笑いながら行きましょう

2024年4月12日

## 色々な情報がありますが

本田カイロプラクティックの

玄関先を掃除していると

虫を見かける様になりました

季節の移ろいを感じます

暖かくなってくると

ダイエット系の物を多く目にします

本当に毎年毎年 次から次へと

新しいものが発売されますね笑

ただ

数年前に常識とされていたことが

研究により今では間違った情報になっていたりする

ので

新しいものの発売は悪くはないと思います

ものによりますが

自分自身で良く吟味しましょう

分からない事

疑問に思った事

などがありましたら

遠慮なく施術の際に相談して下さい

3S+ゆたぼん+ヨーグルト+八分をしつかりと

効率よく健康になっていきましょう

今日も楽しんで笑いながら行きましょう

康鍼治療院 (www.yasuhari.com)

玄翁

## 「タフな心臓」

心こころの臓ぞうは いのちの臓器  
生命発生する時から  
育ちて動きが始まりて  
生きて 活動する中で  
必要応じて 変化して  
いきる状態つくりだす

心臓 拍動する臓で  
血管通して全身の  
細胞・組織と繋がりて  
血液押し出し 代謝させ  
脳・中枢と繋がりて  
精神・感情 生み出すぞ

心は一番 強い臓  
身体・精神 全体を  
高次にまとめる 君主なり

タフで 止とまること知らず  
多少の疲れも何のその  
死ぬその時まで 動いてる

心がゆったり 余裕もち  
必要応じて 休めれば  
心身明るく 充実し  
生命元気に 躍動す  
心の活動 忙いそしく  
落ち着く時間が 無いならば  
心身曇りて 停滞し  
不調や病気がつくられる

現代人の忙いそしなさ  
心臓 負担をかけてるぞ  
心は懐深い臓  
多少は多めに見るなれど  
限度が来たらおしまいじゃ  
心の臓へのやさしさが  
こころもからだ 救うなり



## 「心臓リズムと波動」

心の臓器は 拍動し  
生命波動を生み出して  
波動はいのちの波長となりて  
いきる現実つくりだす

いのちの波長が 身体の  
内へと及んで 伝われば  
身体・精神に 影響し  
人の状態つくりだす  
波動は外へと 影響し  
周りにいる人 空間に  
波長が及んで 共振し  
いきる環境作り出す

心臓リズムがゆつたりと  
穏やか 安定するならば  
いのちの波動は やさしくなり  
その波長にて心身は  
調律されてき 安定す

良き波長にて外界の  
周りの人や空間と  
繋がりが交流できるなら  
自分や相手や環境の  
元氣と平和をもたらずぞ

心臓リズムが忙しなく  
生命波動が 乱れれば  
波長が心身影響し  
不協和音を生み出して  
不調や病気をつくりだし  
いきる環境・現実が  
乱れたものになっていく

心臓リズムを中心に  
安定する様に生きてみりゃ  
豊かないのちの働きが  
自然と身についていくものぞ  
さすれば安心おとずれて  
いのちの現実 良くなるぞ



露台ろだいの桜花おうかに杯さかずきをあ挙あぐ  
殿山木風

春はる来きたつて独ひとり坐ざす老桜ろうおうのほ辺と

醉漢すいかん幽姿ゆうし暮烟ぼえんのうち中

今こん夜や露台ろだい朧月ろうげつ麗うるわしく

風かぜをいざな誘いざなう万片ばんぺん亦また陶然とうぜん

舉杯露臺櫻花

春來獨坐老櫻邊 醉漢幽姿中暮烟  
今夜露臺朧月麗 誘風萬片亦陶然

(語釈) ○露台…テラス。 ○酔漢…酔っ払い。 ○幽姿…ここでは桜の事。 ○暮烟…夕暮の煙。 ○朧月…おぼろ月。

○万片…いっぱいの花びら。 ○陶然…気持ちよく酔ってうっとりする様。

※ 花発いて風雨多し

冬の間は天気が良いすぎるほどだったのに、このところ風、曇天、雨に見舞われている。4月4日は晴れて暖かかった。その日は一教場で恒例の花見をやった。気を入れて飲んだ。

帰宅して改めてテラスの花の下で風情を愉しむ。山桜の一種だ。今年はカメラに随分収めた。気が付いたことが二つ。

テラスの上に枝を張った桜は、遂に書斎の軒端に梢が届いてしまっている。

だから正面の一朶は一層こちらに向かって咲きかけている。

翠葉を取り混ぜた中に咲いている花は、清純の白の感が深い。そしてとうとう散りだした。

テラスに散り積もった花びらを見ると、それがピンクに染まっている。よくよく上と下を見比べた。間違いなく上は白で下はピンクだ。清く散って初めて、うっすらと染まるようで、おもしろいものだと思った。昨日は特に強風が吹く荒れたが、まだ随分残っている。

好時節、とはいえ、春が半ば過ぎようとしている。

(平成十一年四月四日記)

夜桜やこの杯を受けてみよ

## 編集室だより【二〇二四年三月】

今泉 由 利

発送を続け、今日に至ります。後、私は、父母の見られなかったこと、知り得なかったことなどなど…外国へ行って住むようになりました。

今から、八十年ほど前のことです。斎藤茂吉先生は、東海道線下り列車を、下ってゆかれるご用事がおありでした。その汽車道中の、途中駅に、私の父母が住んでおり、三河アララギ誌の短歌の歌会、編集会、発行、発送…今日に至ります。

万葉ゆかりの伝えられている、宮路山、松並木、三河湾…この辺りを「ご案内申しあげたい旨」。父母の家にも、お立寄りいただけましたことを感謝致します。

斎藤茂吉先生、愛知県宝飯郡御津町へおこしいただきました時の母、今泉米子の和歌、

○引馬野を歩みたまひしよろこびの書簡いただきてより  
二十七年

○わが夫の孝證にうなづきつつ涌井の水にしはし立たし  
き

そして、そのまま三河アララギ誌は、歌会、編集会、発行、

日本語ではない所で、日本人の私が、外国での見聞を、暮しを、外国の方の心に出逢って…そうしたら、私自身に、どんな短歌が出来るのだろうか…試してみたくなったのでした。日本から、距離的に一番遠い国をめざして、地球儀をまわし、地球儀が教えてくれた、アルゼンチン国、ブエノスアイレスに移り住みました。

滅茶苦茶ですけれど、自分の思いつき、言いだしてしまつたから、自分の全部を持って、船に乗って四十五日間、ブエノスアイレスに着きました。

言葉も、何もかもわからなかった私を、大切にして下さつた、アルゼンチン、ブエノスアイレスで出会つた方々。ありがとうございます。本当に良い人生になりました。

アルゼンチン住いの最中も、出来る限りを、日本の父母の家の、編集室に帰り、父母と、三河アララギ会員の皆様と、三河アララギを続けてきました。

アルゼンチンで生まれた二人の女の子と、ブエノスアイレスに住み、アルゼンチンの学校へ通っていた子供達に、英語の生活をさせるべく、日本からの持ち物、アルゼンチンからのものを全部持参して、ロスアンゼルスに移動しました。移動荷物は、移動した国の倉庫に収め、何を持っていたのか忘れてしまったり。

アルゼンチン生れの子供達が、スペイン語も英語もネイティブみたいであり、私だけは、勝手に、日本の短歌を行った先々の感覚でいるつもりになって続けている。

父母が亡くなってしまった日本に帰ってきました。父母は、沢山の、純粋な短歌を残して下さいました。

言葉が0ゼロになってしまった<sup>レ</sup>外国<sup>ク</sup>で、私なりの、短歌をかかえ、自分流でいることを守りながら、日本で、短歌尽しの生活をしています。

岩手県の「日本現代詩歌文学館」様より、お便りをいただきました。

是非、地球をまわって、編集をしてまいりました、「三河アララギ」をご保存いただけますようお願い致します。

## 「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三

東京都渋谷区恵比寿三・四五・三

フオーレストヒルズ三〇二

ケイタイ 090・8434・8646

TEL 03・6765・5838

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail [imayurizm@gmail.com](mailto:imayurizm@gmail.com)

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。

三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和六年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行 今泉由利